

調査資料例

会社	生産形態	内容
当社	受注生産と 見込生産と の混合体制	見込生産化の背景
		○大手メーカーとの取引関係上（欠品・納期遅延 × 、即納体制構築必須）⇒安全在庫として相応水準をストックする必要有り
		○受注ロットの更なる小ロット化 ⇒採算面から生産性向上を図る為に受注量より多い相応のロット生産対応が必要となる
		在庫過大の背景
		○工業製品であるため、製品サイクルが長い（10年程度） ⇒製品在庫の長期保有化 ※製品特性からも経年劣化は限定的で長期保有可能
		○需要予測と実際の受注トレンドとの差異発生 ⇒減少傾向の受注トレンドに対して、トレンドに応じた生産量の調整等の適応ができていなかった（結果的に作り過ぎも有り）
		○社内ルール廃棄処分基準履行の不徹底 ⇒社内の廃棄基準を設けるも超過しているものも有り（サフリング等検証済）